

# 「特別なことはிரらない おだやかにくらしたい」

# なによりいのち優先の政治を

甲良町議会9月定例会の最終日（9月27日）、令和2年度一般会計歳入歳出決算認定の議案に対する西澤町議の反対討論（要旨・抜粋）を紹介します。

なお、令和2年度一般会計歳入歳出決算は西澤議員以外の賛成で認定されました。

決算審査にあたって、①コロナ禍において町民の命・健康・くらし・生業・営業を守るため、町政はどのように働いたか。②行政姿勢が適正であったか。主にこの2点で検証した。

## コロナ禍への対応は？

コロナ禍における取り組みでは、やっと国民一人当たり10万円の定額給付金支給が決まり、地方自治体には使道原則自由の地方創生臨時交付金に助けられ、町独自の積極的な直接支援策が実施された。とりわけ町民に歓迎されたのは水道料金基本料の免除でその後、今年度分4月～7月分を合わせ、12か

月にわたる免除は県下で一番となった。また、定額給付金の1万円上乗せ支給、学生支援金、子育て世代の支援金など直接支援はどれも歓迎された。

町長「個人施策は実施しない」

一方、税等の町独自のコロナ減免が見送られ、昨年末、国の第三次補正予算の決定を受け、町長は「新しい個人給付は今後実施しない」とした方針を表明。個人給付は「税金のバラマキ」では決してなく、住民の福利厚生に深くかわり、憲法で保障している住民が健康で暮らし生業を続けることができる社会保障でもある。その福祉施策を今後は拡充しないと表明したと私は受け

速やかに撤回・訂正するべきだと考える。

## 税金の欠損 1,333 万円

税務は行政において要中の要。事業執行の財政的裏づけともなる課題で、依然として滞納が累積し、時効や執行停止となり不能欠損額が今年度も1千万円を超え、1,333万円となり、住宅新築資金の1,079万、上下水道など各種料金との合計で2,878万4千円となり町税収入8億2,041万円との比較で見ると3.5%にものぼる。

税・各種料金の滞納問題では重要なテーマが突きつけられている。一つは格差と貧困が深刻になる中での経済弱者への施策の不十分さ、もうひとつは無法の放置だ。この両面を正しく統一して方針化し、実践して、粘り強く、甲良町政にはびこる悪しき体質を克服することがとりわけ重要だ。

## 2重払い？ 231万円返還

着服事件にかかわって、2重払いと認定された町民へ「寄付金返還」として231万3,900円が支出された。K元職員に直接払ったに

もかわらず、領収書や証拠書類がないために、未納だと請求されている町民がおられる一方で、不透明なまま税の返還を受ける不公平感がぬぐえない現実があることも肝に銘じるべきだ。

## 「生きる」を支える

政治は人が生きるため、人々と暮らすうえで必要な施策を整える義務がある。いま、甲良町では、「滞納」という困難な状況から、「税の取り立て」という発想を改め、その町民がおかれている困難さの糸を解す相談者・助言者としての役割を発揮しているのか、町長はじめ幹部職員は自らを総括していただきたいと切に願っている。

## PCR検査の拡充へ

昨年、町内のコロナ感染の陽性者が発表される度に臨時の全協が招集され、町政と議会とがこの難局を乗り切るうえで現状を共有することができる場が設けられたことは大変評価できる。その良い面から、濃厚接触という狭い範囲ではな

くクラス全員など対象を広げたPCR検査が実施され2次感染を防ぐ役割も果たせた。建部議員ほか有志の修正提案で、県内でも注目されるPCR検査等の補助制度実現へとつながった。

令和2年度一般会計の当初予算は否決され、議員提出の修正案と9月の補正予算でも修正案が可決。コロナ感染に伴う住民支援が重点的に盛り込まれた。

しかし、「新しい個人施策は実施しない」と表明されたこと、もう一つは税務の位置づけの軽さなど根本から改善がされたとは見ることができない。

## くらし応援の政治へ

来年度・令和4年度の予算編成に当たっては、コロナ危機の中、何よりいのち・くらし守る町政、小零細業者の営業を支える施策を最優先に、「特別なことはிரらない。穏やかに暮らし



## 甲良民報

2021年10月10日 833号  
発行責任：日本共産党甲良町議員  
連絡：甲良町在土373（西澤）  
Tel：38-4949 Fax：38-2242

ご相談・ご要望をどうぞ。 ☆くらし・税金・教育などの相談は 西澤伸明 38-4949 丸山光雄 38-3123  
©日本共産党の見解を紹介いたします。メール shigakoura.jcp@ares.eonet.ne.jp ホームページもごらんください【「西澤伸明」で検索】

# 第6波起こさぬ 対策と備えを

新型コロナウイルス感染の「第5波」では、政府の「原則自宅療養」方針のもとでコロナ在宅死が8月だけで250人にのぼるなど、多くの犠牲が生まれた。「第6波」を起こさないための対策に全力をあげるとともに、「第6波」が起きた場合の備えをしっかりと行うことが、いま大切です。

共産党の志位和夫委員長は9月28日の会見で、「原則自宅療養」方針の撤回と臨時医療施設の大規模な増設、保健所体制の強化などを求めました。感染力の強いデルタ株のもと、ワクチン一本やりでは抑えられません。ワクチン接種と一体の大規模検査が必要だと強調しました。また、持続化給付金などの再支給や生活困窮者への10万円給付など、十分な補償をやるべきだと述べました。【近畿民報より】

## 総選挙で自民・公明政治に サヨナラを

新しく発足した岸田政権でアベ・スガ政治を転換できるでしょうか？

17日公示の総選挙では自民・公明を過半数割れに追い込み、政権交代を実現しましょう。コロナ対応の失策、貧困と格差の深刻な拡大、憲法無視などなど、もうこれ以上、自民・公明政権に任せておけません。

市民と野党共闘の推進力、「なによりいのち ぶれずにつらぬく」日本共産党の闘争が重要だ。 << 西選仲間 >>

# 政治の中身は 「アベ・スガ直系政治」

## 新首相に 岸田氏

4日、首相に就任した岸田文雄・自民党総裁。コロナ対応や外交、改憲への姿勢などは「安倍・菅政治直系」ぶりが鮮明です。政権を中枢で支えてきた岸田氏。党役員人事でも「安倍カラー」がハッキリ。政治を変えるには政権交代しかありません。

平和

## 安保法強行、改憲明言

安保法制や辺野古新基地建設の強行など、安倍氏と一体になって日米同盟強化を推進。被爆地・広島県の選出であるにもかかわらず核兵器禁止条約を一貫して否定。総裁任期中に改憲実現を目指すと明言しました。



安保法制について答弁する当時の安倍首相（左）と岸田外相（右）＝2015年5月27日、衆院安保法制特別委

コロナ対策

## 無策に反省なし

岸田氏は、コロナ対策について安倍・菅政治の逆行と無策への反省を一切語りません。コロナ対策は、「11月中の希望者全員のワクチン接種完了」「年内の経口薬普及」と菅路線の継承と言えるものばかりです。

党役員人事

## 疑惑に無反省すぎる

新しい自民党役員人事。安倍政権時代に金銭授受疑惑で閣僚辞任した甘利明氏が幹事長、「森友」公文書の改ざん解明に背を向ける麻生太郎財務相は副総裁。数々の「政治とカネ」問題への反省が全くありません。

経済

## 「アベノミクス」を礼賛

「新自由主義からの転換」と言いながら大企業優遇のアベノミクスについて「間違いなく大きな成果があった」と評価し継承する姿勢。消費税について「当面さわらない」と減税を否定。一方、企業への“税制支援”を主張。



岸田氏（右から2人目）が発足させた「新たな資本主義を創る議員連盟」で両脇を固める（左から）甘利氏、安倍元首相、麻生氏＝6月11日、東京・衆院議員会館

政  
権  
交  
代  
で  
チ  
ェ  
ン  
ジ  
を